

第76回 定時株主総会

2018年6月27日

株式会社 **アドバンテスト**

全般の状況

世界経済

- 米国 堅実な成長
- 欧州・日本 景気回復が加速
- 中国・新興国 継続的成長

ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

2

当期における世界経済は、全体として回復基調が維持されました。先進国では、米国経済が堅調に推移したことに加え、欧州や日本でも景気回復が加速する動きが見られました。中国などの新興諸国においても成長が続きました。

全般の状況

半導体関連市場

- スマートフォン用半導体設備投資が軟調
- 車載半導体・センサーの需要が堅調
- メモリ半導体メーカー生産能力増強のため投資が活発化

為替

- 平均為替レート
米ドル 111円（前期108円）
ユーロ 129円（前期119円）

ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

3

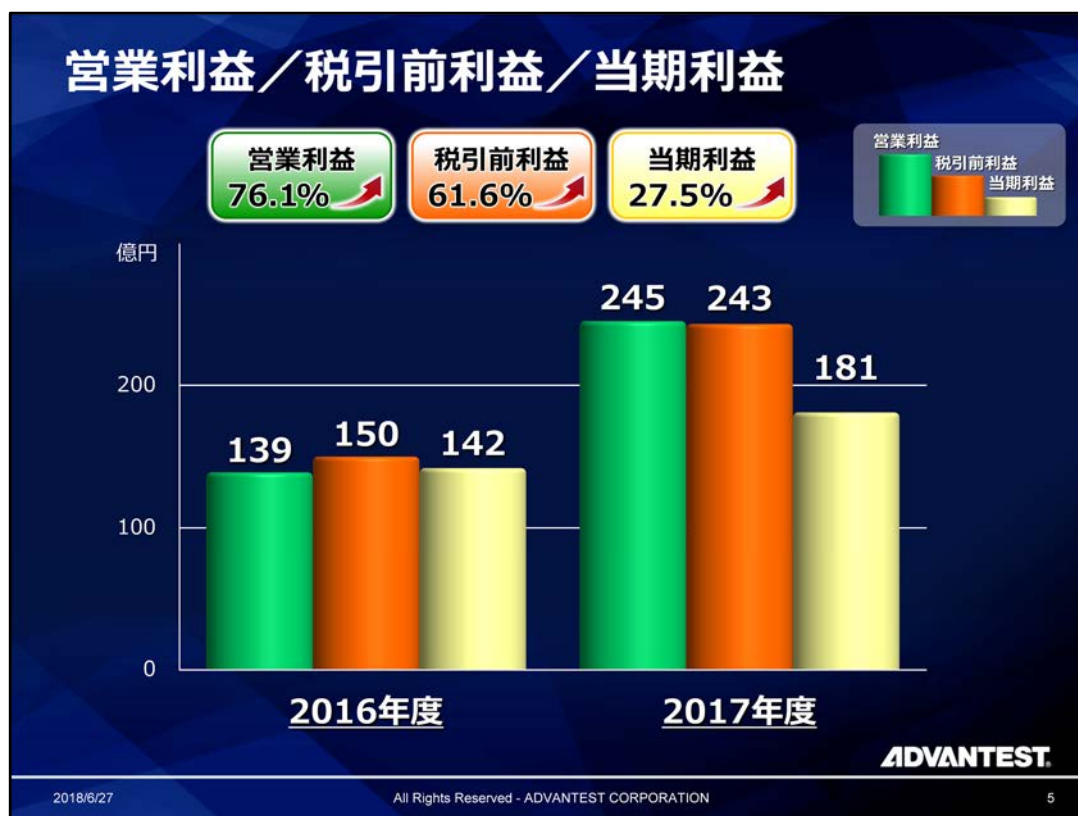
半導体関連市場においては、中国スマートフォンの在庫調整が長引いたことで、スマートフォンに使用される半導体への設備投資は全般的に盛り上がりには欠けました。一方で、自動車電装化の進展を背景に、車載半導体やセンサーの需要が堅調でした。またデータセンター関連の半導体に対する旺盛な需要が維持され、とりわけ3次元NAND型フラッシュメモリやDRAMに対する需要が拡大したことで、各メモリ半導体メーカーで生産能力増強のための投資が積極的行われました。

当期の平均為替レートは、米ドルが111円、ユーロが129円となりました。



このような事業環境のもと、当社は、
伸長著しいメモリ半導体や車載半導体向けの試験装置需要の
取り込み、および半導体試験周辺機器の一層の拡販に努めました。
また足元の急峻な製品需要の伸びに追随すべく、
生産能力の改善にも取り組みました。

その結果、
受注高は前期比50.5%増の2,478億円、
売上高は前期比32.9%増の2,072億円となり、
ともに2006年度以来11年ぶりとなる高水準の実績を収めました。



利益面については、
採算性が良い製品の売上高比率の低下、
ナノテクノロジー事業における棚卸資産評価損の計上などで
売上総利益率は前期を下回ったものの、
全社を挙げて事業効率改善に努めたことにより
営業利益は前期比76.1%増の245億円となりました。
税引前利益は前期比61.6%増の243億円、
当期利益は前期比27.5%増の181億円となりました。

海外売上比率

単位：億円



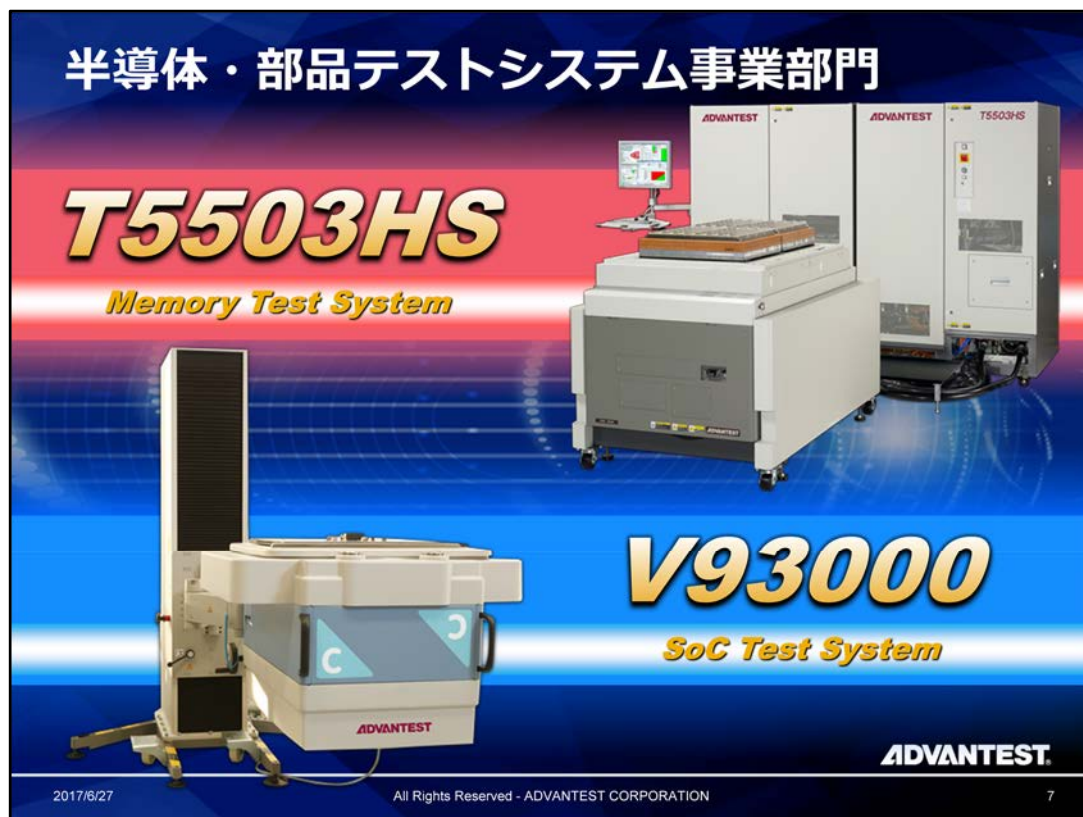
2016年度



2017年度

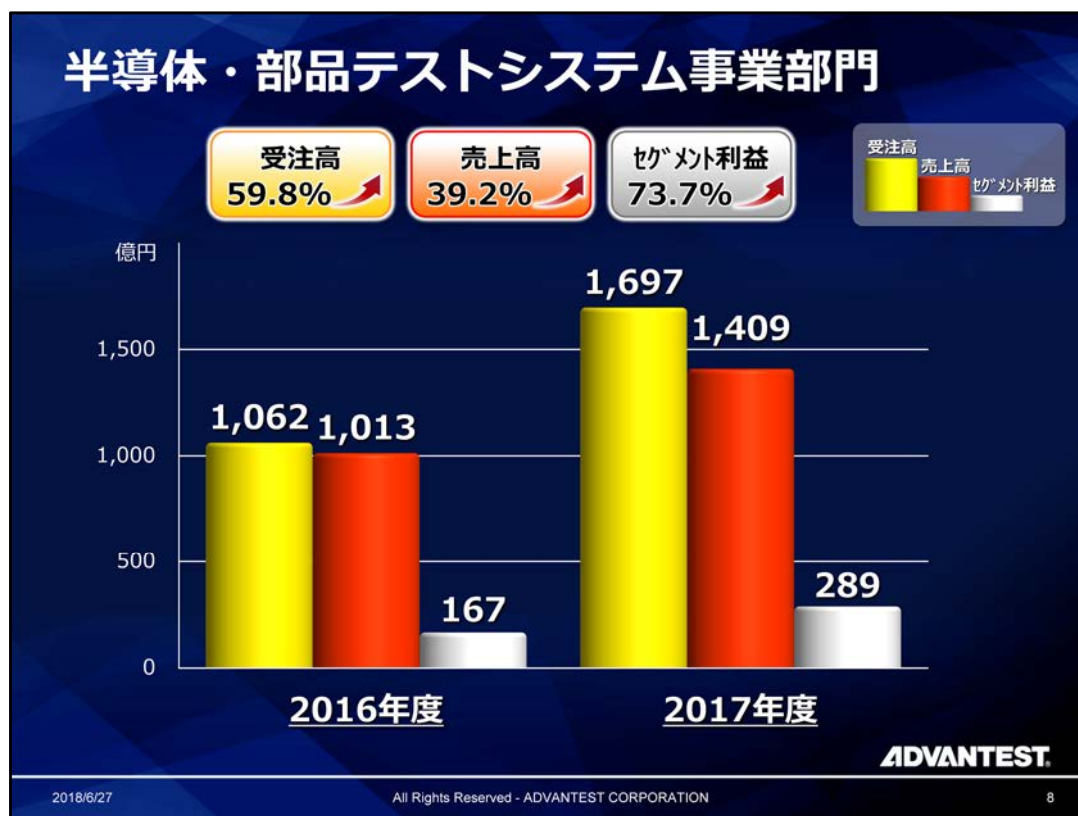
ADVANTEST

海外売上比率は93.2%となりました。



次に部門別の状況についてご説明いたします。

半導体・部品テストシステム事業部門では、
非メモリ半導体用テストシステム事業は、車載半導体、
有機ELディスプレイドライバ、液晶ディスプレイドライバ用の
製品の需要が期を通じて好調でした。
スマートフォン関連の半導体試験装置は、
期初から需要停滞が続きましたが、2017年の年末から需要に
持ち直しの動きが見られました。
メモリ半導体用テストシステム事業は、
メモリ半導体メーカー各社で旺盛な設備投資が実行されたことと、
当社が市場シェアを伸ばしたことで、受注高、売上高とも前期比で
大きく伸長しました。

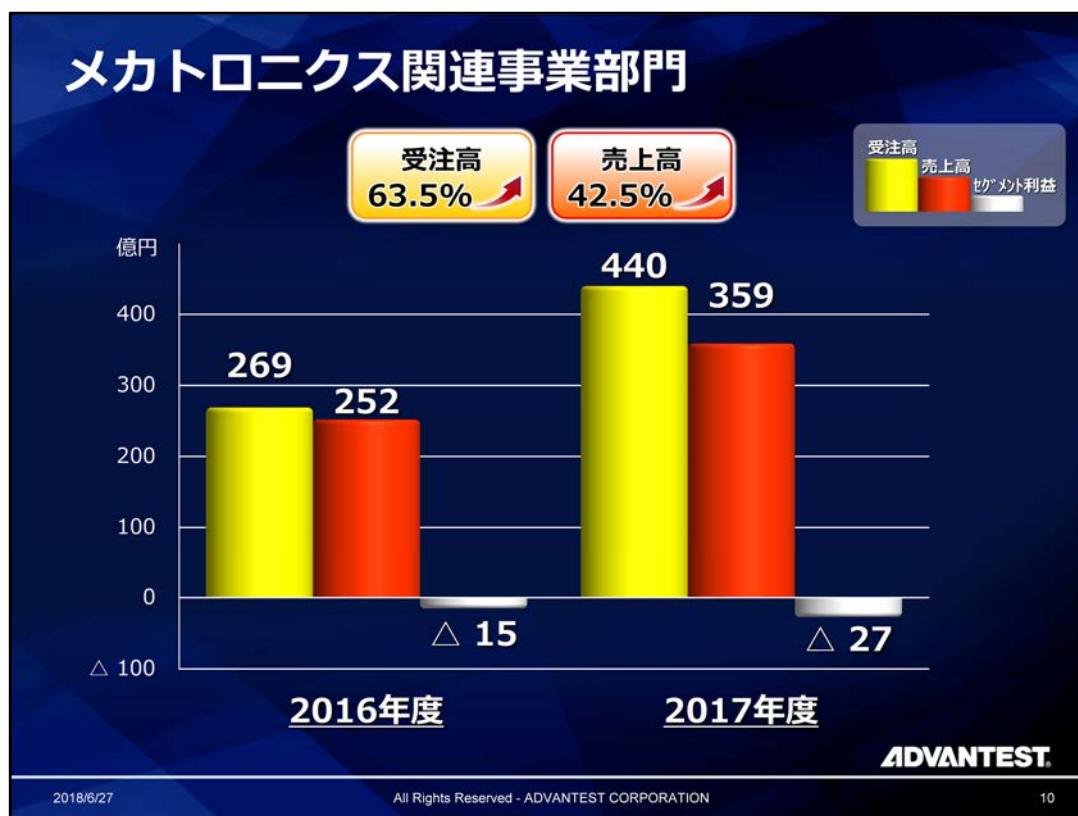


以上により、
当部門の受注高は前期比59.8%増の1,697億円、
売上高は前期比39.2%増の1,409億円、
セグメント利益は前期比73.7%増の289億円となりました。



メカトロニクス関連事業部門では、メモリ半導体メーカーで生産能力増強投資が積極的に展開されたことで、メモリ半導体用テストシステムと事業関連性の高いデバイス・インタフェース製品の需要が伸びました。車載半導体の量産投資が堅調に進む中、テスト・ハンドラの需要も伸長しました。

一方でナノテクノロジー事業において一部のプロジェクト中止を決定したことで、関連する棚卸資産の評価損33億円を第3四半期に計上しました。

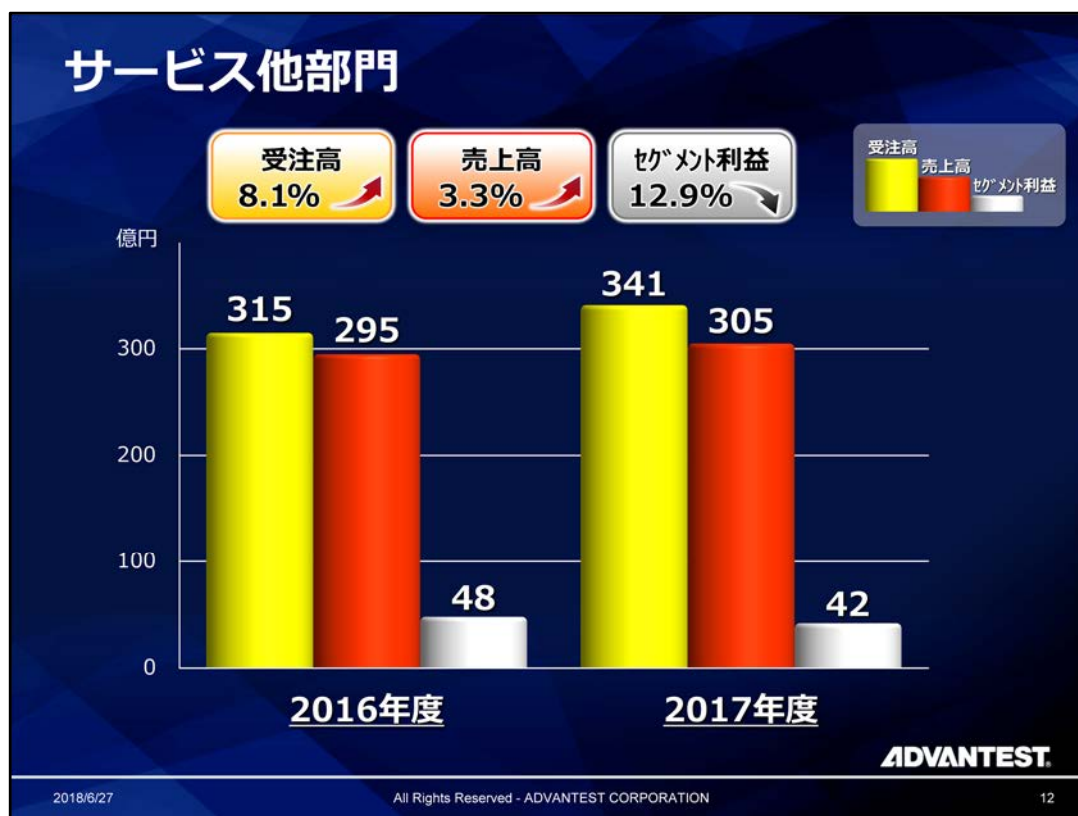


以上により、
当部門の受注高は前期比63.5%増の440億円、
売上高は前期比42.5%増の359億円、
セグメント損失は前期より12億円悪化し、27億円となりました。

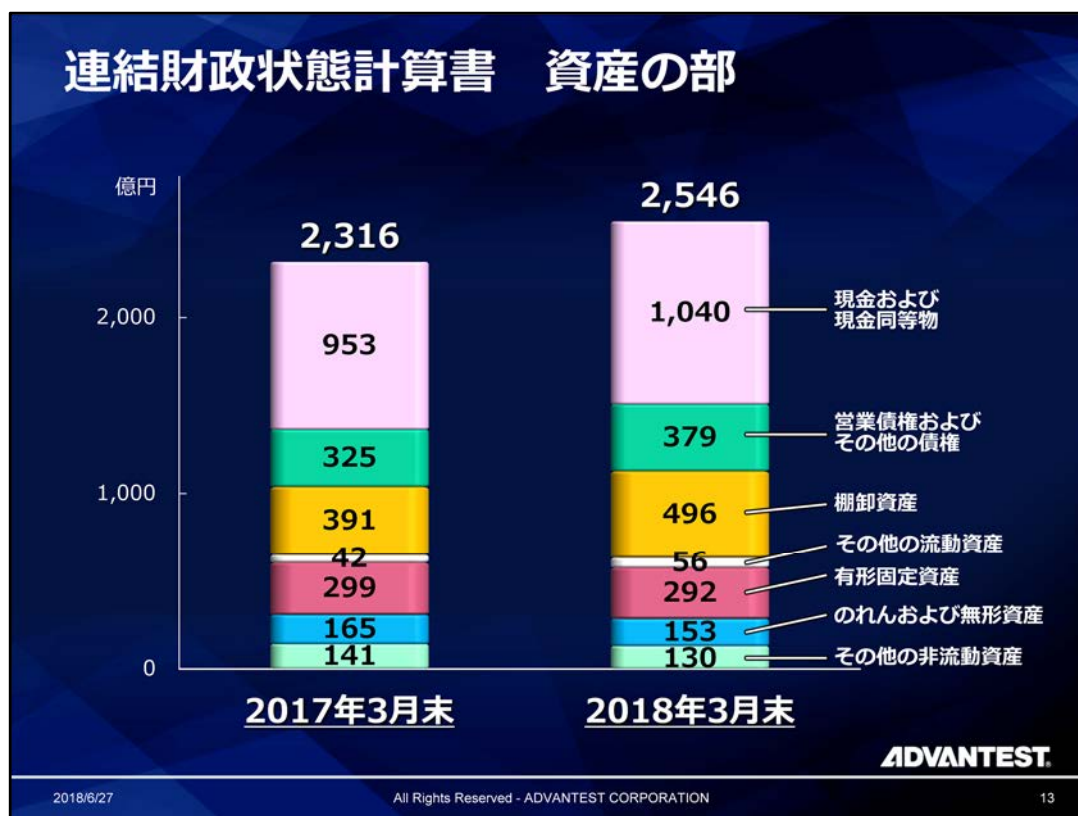


サービス他部門では、
半導体市場の活況を背景に、
保守サービスに対する需要が安定的に推移しました。

また旺盛なデータセンター関連投資を背景に、
SSDテストの引き合いも順調に伸びました。
これを受けて、フィールドサービス事業やSSDテスト事業で、
今後の事業拡大に向けた体制強化を行いました。

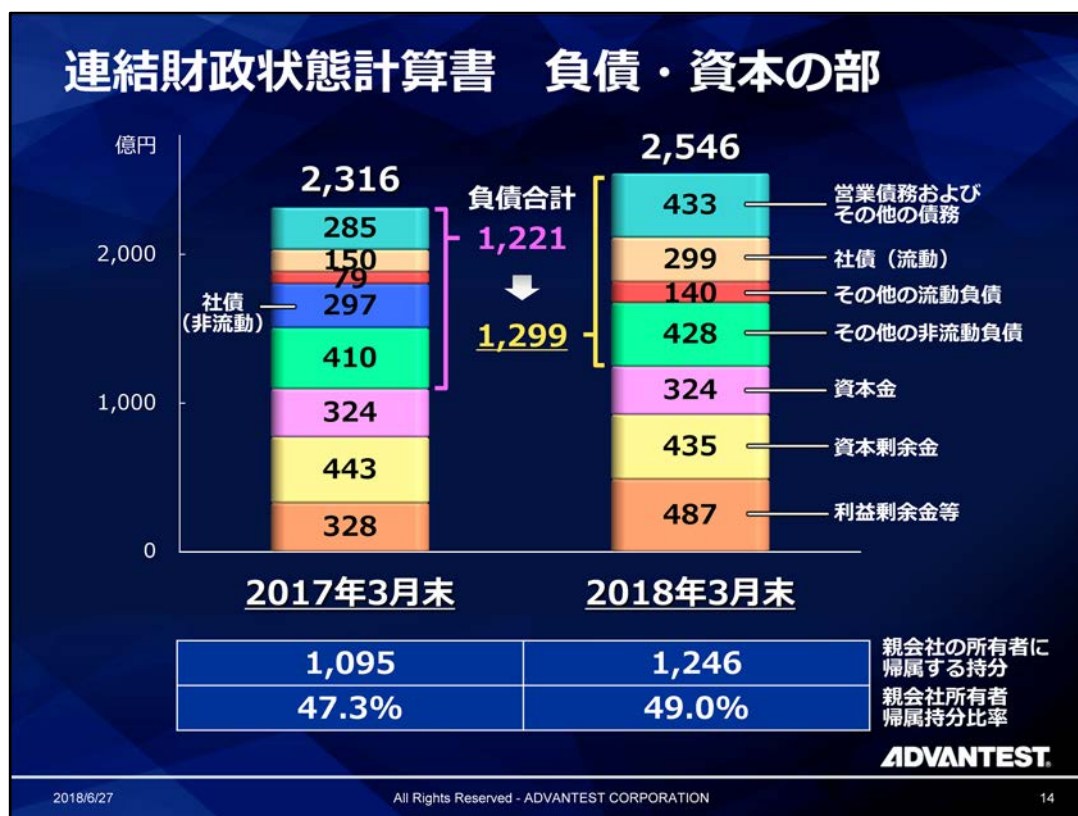


以上により、
当部門の受注高は前期比8.1%増の341億円、
売上高は前期比3.3%増の305億円、
セグメント利益は前期比12.9%減の42億円となりました。



続きまして、招集ご通知44ページに記載の連結財政状態計算書についてご報告申し上げます。

当期末の総資産は、前期末比で230億円増加し、2,546億円となりました。この主な要因は、棚卸資産が105億円、現金および現金同等物が86億円、営業債権およびその他の債権が55億円増加したことなどによります。



負債合計は、
社債の償還により150億円減少しましたが、
営業債務およびその他の債務が148億円、
主に前受金の増加によりその他流動負債が25億円、
未払法人所得税が23億円増加したことなどにより、
前期末比で79億円増加し、1,299億円となりました。

資本合計は1,246億円となり、
親会社所有者帰属持分比率は1.7ポイント増加し、
49.0%となりました。

剰余金の配当 第76期

中間配当金 **1株当たり 9円**

期末配当金 **1株当たり 23円**

年間の配当金 **1株当たり 32円**

ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

15

第76期期末配当金につきましては、
2018年5月22日開催の取締役会において、1株当たり23円と決議し、
本総会の招集通知と併せて、配当金関係書類をお送りしました。
これにより、中間配当金を加えた年間の配当金は
1株当たり32円となります。

当社の取り組み

ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

16

2018年度業績予想			
	(億円)		
	2017年度 実績	2018年度 予想	前年度比
受 注 高	2,478	2,200	-11.2%
売 上 高	2,072	2,300	+11.0%
営 業 利 益	245	345	+40.9%
当 期 利 益	181	278	+53.6%

※ 為替前提：1米ドル=105円、1ユーロ=135円

ADVANTEST

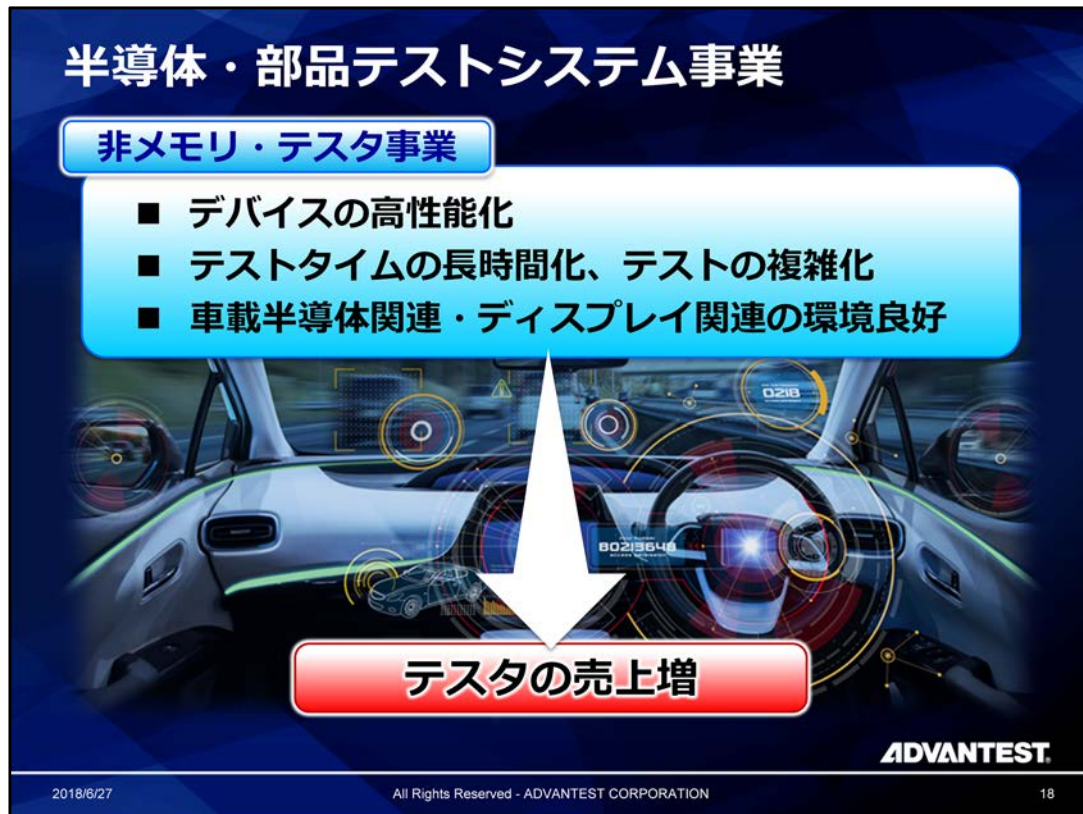
2018/6/27 All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION 17

まず、2018年度の見通しですが、

受注高	2,200億円
売上高	2,300億円
営業利益	345億円
当期利益	278億円

と予想しています。

受注高は前年度比でマイナスとなりますが、これは2017年度に前倒し受注が約150億円あった影響であり、それを考慮すると2017年度と同水準となります。前年度の受注残と2018年度受注見込から増収を見込んでいます。



半導体・部品テストシステム事業

非メモリ・テスト事業

- デバイスの高性能化
- テストタイムの長時間化、テストの複雑化
- 車載半導体関連・ディスプレイ関連の環境良好

テストの売上増

ADVANTEST

2018/6/27 All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION 18

事業ごとに見ていきます。

まず、半導体・部品テストシステム事業です。

非メモリ・テスト事業では、スマートフォンやAIサーバーに使われるハイエンドなSoCやロジックICの高性能化が進むことで、テストタイムの長時間化やテストの複雑化がさらに進行します。また、2017年度に引き続き、車載半導体関連やディスプレイ関連の事業環境は良好と見込まれます。これらの環境の下、当社は非メモリ・テストの売上増に取り組んでいきます。

半導体・部品テストシステム事業

メモリ・テスト事業

- DRAM後工程テストの設備投資継続
- 3D NAND向けテスト・バーンインテストへの設備投資継続

当社の市場No.1のポジションを活かし売上増

ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

19

メモリ・テスト事業では、
サーバー用DRAMへの強い需要を背景に、
DRAM用後工程テストの設備投資が安定的に行われる見通しです。
FlashメモリのNANDでは、3D NAND量産に向け、半導体テストや
バーンインテストへの設備投資が堅調に続く見込みです。

2018年度もメモリ・テスト市場の成長が続く好環境において、
当社の市場ナンバーワンのポジションを活かし、
さらなる売上増を目指します。

メカトロニクス関連事業

- メモリ向け・車載向けハンドラ需要の増加に伴う売上伸長

サービス他事業

- SSDテスト市場成長に伴うセグメントでの増収



ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

20

メカトロニクス関連事業では、メモリ・ハンドラ、車載向けハンドラの需要の伸びを事業拡大につなげていきます。

サービス他事業では、中古販売ビジネスによる収入は微増であるものの、ひき続き堅調な保守サービスやSSDテスト市場の成長によりセグメントでの増収を目指します。

2018年度の重点施策

テスト需要拡大に対応する
部品調達能力の改善

持続的成長に向けた顧客との
パートナーシップ強化

ADVANTEST

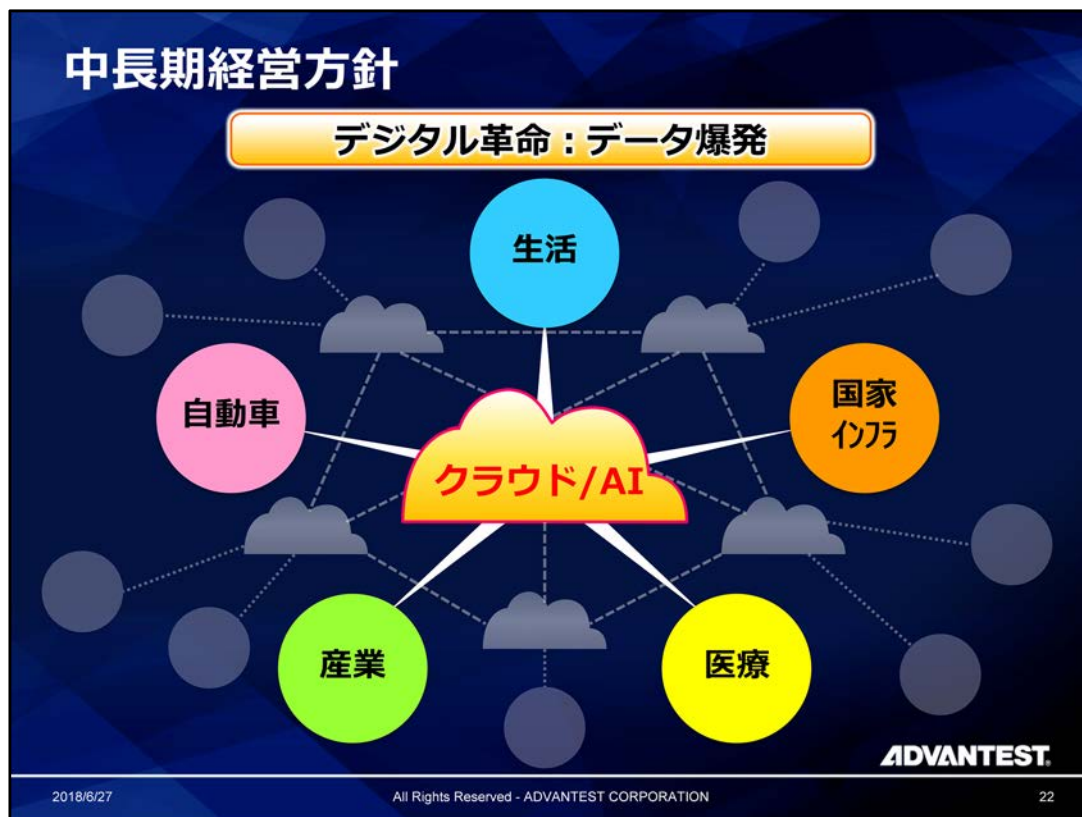
2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

21

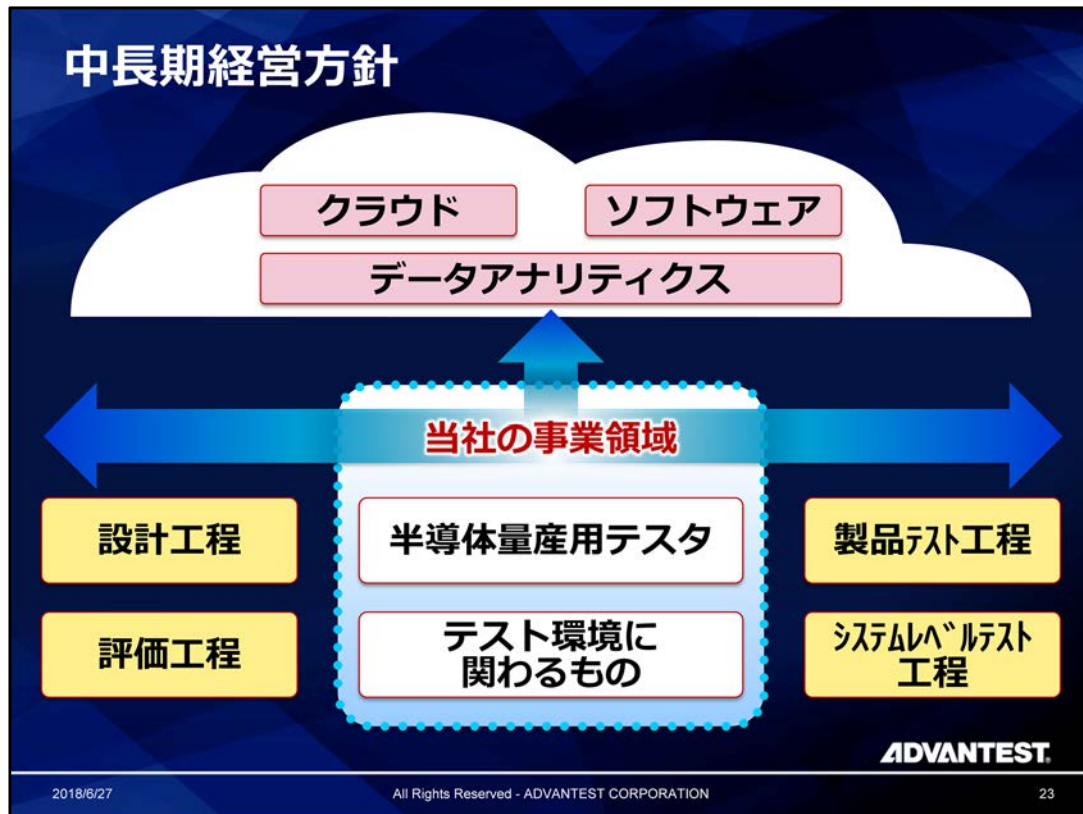
2018年度の重点施策としては、
まず、急激に拡大するテスト需要に対応できるよう
部品調達能力を改善します。

また、持続的成長に向け、AI、5G通信、
先進運転支援システムなどの有望なテーマにおいて、
顧客とのパートナーシップを強化していきます。



次に、今年4月に発表しました中長期経営方針についてご説明いたします。
当社は経営理念である「先端技術を先端で支える」を体現するため、
2018年度を起点とした10年間の
「グランドデザイン」および3年間の「中期経営計画」を策定しました。

前提となる経営環境を見通してみますと、
現在、さまざまな社会課題をテクノロジーを使って解決していく
デジタル革命が進行しています。
デジタル革命の基盤となるのがビッグ・データです。私たちの周りの
あらゆる事象がデータ化され、さまざまな現場のデータがクラウドに集まり
分析、解析され、フィードバックされます。
このように、データ・ネットワークはどんどん広く深くなり、
その結果、データ量は飛躍的に増えます。
これがいわゆる「データ爆発」です。
この「データ爆発」が半導体を新たなステージに導きます。
データ・センシング、通信、データ・ストレージ、演算処理など
全てに半導体が用いられます。
また、価値の源泉であるデータを扱う半導体は、
社会インフラの性質を持つようになります。
社会インフラとしての半導体には信頼性の要求が強まり
テストの重要性もますます高まります。



このような長期のトレンドを見据え、
グランドデザインのビジョン・ステートメントは
「進化する半導体バリューチェーンで顧客価値を追求」としました。

現在の当社の主な事業領域は、半導体量産用のテストやテスト環境に関わるものですが、今後は半導体量産工程の前後にある半導体設計、評価あるいは製品・システムレベル試験工程といった近縁市場へ事業領域を広げるとともに、テストで生まれたデータを使って付加価値の追求をするためにクラウド、ソフトウェア、データアナリティクスといったテクノロジーを取り込んでいきたいと考えています。

中長期経営方針

グランドデザイン
(10年：2018年度～2027年度)

- ビジョン・ステートメント
「進化する半導体バリューチェーンで
顧客価値を追求」
- 戦略
 1. コア・ビジネスの強化、重点投資
 2. オペレーショナル・エクセレンスの追求
 3. さらなる飛躍への価値探求
 4. 新事業領域の開拓

ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

24

この長期ビジョン達成に向け「コア・ビジネスの強化、重点投資」、
「オペレーショナル・エクセレンスの追求」、
「さらなる飛躍への価値探求」、
「新事業領域の開拓」の4つの戦略課題に取り組めます。

中長期経営方針

グランドデザイン (10年：2018年度～2027年度)

- 長期経営目標
売上高 3,000億円 ～ 4,000億円の達成
- コスト、利益構造
3,000億円レベルでのコスト構造モデル（目安）
 - 売上原価率 46%
 - 販管費率 32%
 - 営業利益率 22%



ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

25

これらの取り組みに加え、この先、半導体テスト市場の規模が年4%成長すると仮定した場合、10年後に売上高4,000億円到達が視野に入ります。また、半導体市場が伸びてもテスト市場は伸びないという保守的な仮定でも、10年後に売上高3,000億円は目指すことができると考えています。

売上成長を目指すにあたり、コスト構造のバランスにも配慮します。将来のコスト構造のイメージは、売上高3,000億円レベルで、売上原価率46%、販管費率32%、営業利益率22%を目安とします。

以上が、当社のグランドデザインとなります。

中長期経営方針

中期経営計画 (3年：2018年度～2020年度)

■ 経営指標

	2018～2020年度(平均) 保守的シナリオ	2018～2020年度(平均) ベース・シナリオ
半導体試験装置市場 成長率	年0%	年4%
売上高	2,300億円	2,500億円
営業利益率	15%	17%
親会社所有者帰属持分 当期利益率 (ROE)	15%	18%
基本的1株当たり当期利益 (EPS)	135円	170円

ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

26

グランドデザインの元で2020年度までの3年間の中期経営計画では、期間損益の改善と資本の効率的活用の双方を意識しつつ、企業価値の向上に取り組みます。この考えに基づき、中期経営計画期間における当社の重要な経営指標を売上高、営業利益率、ROE、EPS、1株当たり当期利益とし、これらの改善に努めます。

テスト市場年4%成長を見込むベース・シナリオでは、3年度平均売上高2,500億円、営業利益率17%、ROE18%、EPS170円です。

一方、テスト市場が伸びないという保守的なシナリオでは売上高2,300億円としています。

※ 本中長期経営方針において当社の将来の業績指標の予想に用いた数値の為替前提は、1米ドル=110円、1ユーロ=135円です。また親会社所有者帰属持分当期利益率(ROE)、1株当たり当期利益(EPS)の目標値は、2019年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債(300億円)全額が株式に転換された場合の数値となります。

中長期経営方針

中期経営計画 (3年：2018年度～2020年度)

- 財務方針・株主還元
 - 事業成長基盤の強化
 - 健全な財務状態の維持
 - 半期連結配当性向30%
 - M&A投資枠 1,000億円設定
 - 長期にわたり留保された余剰資金の
総株主還元の検討



ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

27

また、当社は事業成長基盤の強化と健全な財務状態の維持にも努めていきます。株主還元については、半期連結配当性向30%を基本とし、1株あたり利益の成長を通じて配当水準を向上させるという方針を継続します。また、余剰資金は成長投資に優先活用します。研究開発に年300億円以上を継続投資するほか、M&A投資枠を1,000億円設定します。ただし、長期にわたり余剰資金が留保される場合には、成長への投資を勘案しつつ、配当性向の見直しや自己株式取得等の総株主還元を機動的に検討します。

中長期経営方針

中期経営計画 (3年：2018年度～2020年度)

- ESG（環境・社会・ガバナンス）課題への取り組み
 - 社会の「安心・安全・心地よい」と持続的な未来への貢献
 - 人財育成・ワークスタイル改革を通じた長期戦略達成・事業伸長のための基盤強化
 - 取締役会のダイバーシティを進めガバナンスを強化



ADVANTEST

2018/6/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

28

グローバルな社会的課題の解決のために、
今後半導体の役割はますます重要になります。
当社は半導体のテストを通じて、社会の「安心・安全・心地よい」と
持続可能な未来へ貢献していきます。

また、グローバル人財・フロンティア人財の育成や
ワークスタイルの改革を通じ、長期戦略達成および
事業伸長のための基盤を強化します。
さらにその人的資本を効果的に活用するため、
事業環境および経営戦略に常に則した組織の運営や整備を図ります。

ガバナンスの面では、当社の取締役会は9名のうち4名が社外取締役で、
また2名の外国籍取締役がおります。今回の取締役の選任議案が
可決されますと、さらに女性取締役が在籍することになります。
今後も取締役会の一層のダイバーシティを進め、
ガバナンスの効いた経営を目指していきます。

株主の皆様におかれましては、
今後とも一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

ご注意

◆会計基準について

本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

◆将来の見通しに関する記述について

本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。

これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

◆本資料の利用について

本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。

ADVANTEST